

故障申立人ハ三日内ニ趣意書ヲ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ速ニ趣意書ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ三日内ニ答辯書ヲ差出ス可シ得

第二百四十九條 故障アリタル時ハ對手人ヨリ其判決アルマテ何時ニテモ附帶ノ故障ヲ爲ス可シ得

附帶ノ故障アリタル時ハ書記ヨリ其趣意書ヲ對手人ニ送達ス可シ對手人ハ三日内ニ答辯書ヲ差出ス可シ得

第二百五十條 豫審終結ノ言渡ハ故障ノ期限内又故障アリタル時ハ其判決アルマテ執行ヲ停止ス但被告人ヲ拘留シ又ハ保釋責付ヲ取消スノ言渡ハ其執行ヲ停止セス

第二百五十一條 書記ハ故障趣意書答辯書其他訴訟書類ヲ會議局ニ差出ス可シ

第二百五十二條 會議局ニ於テハ第二百三十六條ノ規則ニ從ヒ故障ノ判決ヲ爲ス可シ

豫審判事ノ言渡ヲ認可シタル時ハ其旨ヲ言渡シ若シ其全部又ハ幾分ヲ取消シタル時ハ全部ニ付キ更ニ言渡ヲ爲ス可シ

又被告人ヲ保釋責付シ又ハ拘留スルノ言渡ヲ爲ス可シ得

第二百五十三條 會議局ニ於テ必要ナリトスル時ハ判事一名ヲシテ更ニ豫審ヲ爲シ又ハ其指示スル所ノ條件ニ付キ更ニ取調ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシム可シ

第二百五十四條 會議局ニ於テ故障ノ取調中管轄越權又ハ公訴受理ス可カラサルコトヲ發見シタル時ハ職權ヲ以テ豫審判事ノ言渡ヲ取消ス可シ得

第二百五十五條 會議局ニ於テ故障ノ取調中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルコト附帶ノ犯罪ニ

付キ豫審ヲ受ケサル者アルコトヲ發見シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシム可シ

檢事ハ意見書ヲ差出ス可シ

會議局ニ於テハ報告書其他訴訟書類ニ依リ故障ト共ニ之ヲ判決ス可シ

第二百五十六條 故障ノ判決アリタル時ハ速ニ其言渡書ノ原本ヲ檢事民事原告人及ヒ被告人ニ送達ス可シ

第二百五十七條 檢事其他訴訟關係人ハ會議局ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲ス可シ得

第二百五十八條 被告人ニ送達ス可キ言渡書ニハ其言渡ニ對シ上訴スルヲ得可キヲ及ヒ其期限ヲ記載ス可シ其記載ナキ時ハ規則ニ從ヒ更ニ言渡書ノ送達アルマテ被告人上訴ノ權ヲ失フコトナカル可シ

第二百五十九條 第三百一十一條ヨリ第二百三十三條マテノ規則ハ豫審ノ上訴ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二百六十條 重罪裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ檢事其言渡書ニ一切ノ書類ヲ添ヘ速ニ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致ス可シ

檢事長ハ一切ノ書類證據物件及ヒ被告人ヲ重罪裁判所ニ移スノ處分ヲ檢事ニ命ス可シ
重罪裁判所以外ノ裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ檢事速ニ其執行ヲ爲ス可シ

附錄 明治十五年五月二日司法省丙第拾八號大審院裁判所警視廳
府縣東京府ヲ除クへ達

治罪法第二百六十條ノ場合ニ於テ被告人ヲ重罪裁判所開廳ノ地ノ監倉ニ移ス時ハ檢事

ハ前令狀ニ檢事長ノ命令書ノ寫ヲ添ヘテ重罪裁判所檢察官ニ送致シ其檢察官ハ是等ノ書類ヲ其地ノ監倉長ニ示シテ被告人ヲ收監セシムルノ處分ヲ爲ス可シ其他法律ニ從ヒ被告人ヲ他ノ監倉ニ移ス場合ニ於テモ此例ニ準スル義ト心得ヘシ此旨相違候事

第二百六十一條 豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其言渡確定シタル時ハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ更ニ訴ヲ受クルコトナカル可シ但新ナル證憑アル時ハ此限ニ在ラス新ナル證憑アル時ハ檢事ヨリ之ヲ會議局ニ差出シ會議局ニ於テハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

第四編 公判

第壹章 通則

第二百六十二條 訴訟事件ハ書記局ノ簿冊ニ登記シタル順序ニ從ヒ之ヲ公判ニ付ス可シ裁判所長ハ未決勾留ノ日數ヲ減縮スル爲メ職權ヲ以テ其順序ヲ變更スルコトヲ得又重要ナル事由ノ爲メ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アリタル時モ亦順序ヲ變更スルコトヲ得

第二百六十三條 重罪輕罪違警罪ノ訊問辯論及ヒ裁判言渡ハ之ヲ公行ス否ラサル時ハ其言渡ノ效ナカル可シ

第二百六十四條 被告事件公安ヲ害シ又ハ猥褻ニ涉リ風俗ヲ害スルノ恐アル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訊問及ヒ辯論ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得其裁判言渡ヲ爲スニ當テハ傍聽ヲ許ス可シ

第二百六十五條 被告人ハ公廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但守卒ヲ置クコトアル可シ

十五年司丁第
廿一號
廿一號

十四年司甲第
八號
千二百五十四
代以テ所屬
代人規則ヲ
定ム

禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人疾病アルニ非スシテ出廷ヲ肯セサル時ハ之ヲ引致スルコトヲ得若シ出廷シテ辯論スルコトヲ肯セサル時ハ對審トシテ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第二百六十六條 被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用フルコトヲ得辯護人ハ裁判所々屬ノ代言人中ヨリ之ヲ撰任ス可シ但裁判所ノ允許ヲ得タル時ハ代言人ニ非サル者ト雖モ辯護人ト爲スコトヲ得

第二百六十七條 被告人公廷ニ於テ暴行又ハ喧嘩ヲ爲シ辯論ヲ妨礙スル時ハ裁判長ヨリ再度告戒ヲ爲シ仍ホ之ニ從ハサル時ハ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ被告人ヲ退廷セシメ若クハ勾留スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ對審トシテ引續キ辯論及ヒ裁判言渡ヲ爲スコトヲ得若シ辯論二日ニ渉ル時ハ更ニ被告人ヲ出廷セシム可シ

第二百六十八條 被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出廷スルコト能ハサル時ハ痊癒ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタル時ハ其痊癒ノ後新ニ辯論ヲ爲ス可シ其他ノ疾病ニ罹ル時ハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アリタル時ハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ

若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタル時ハ其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲スコトヲ得

第二百六十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人公判ノ日時ニ出廷セスト雖モ豫審終結ノ

言渡書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達シタルノ證アルニ非サレハ闕席裁判ヲ爲ス可カラス
豫審終結ノ言渡書又ハ呼出狀ヲ本人ニ送達スルヲ能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫
ノ期限ヲ定メ其期限内ニ被告人出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可キノ告知書ヲ親屬若ク
ハ戸長ニ送達ス可シ

第二百七十條 闕席シタル被告人ニ付テハ辯護人ヲ用フルヲ許サス但其親屬故舊ハ被告
人ノ出廷スルヲ能ハサルノ事由ヲ證明スルヲ得

裁判所ニ於テ其事由ヲ正當ナリトスル時ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判ヲ延期スルヲ得

第二百七十一條 被告人中ノ一名又ハ數名出廷セスト雖モ出廷シタル者ニ付テハ通常ノ規
則ニ從ヒ對審裁判ヲ爲ス可シ

第二百七十二條 裁判長ハ公廷ニ於テ諸般ノ取締ノ爲メ相當ノ處置ヲ爲ス可シ

稱讚誹謗其他辯論ヲ妨礙スル者アル時ハ之ヲ制止シ又ハ退廷セシムルヲ得

第二百七十三條 公廷ニ於テ輕罪違警罪ヲ犯シタル者アル時ハ其身分ノ如何ニ拘ハラズ裁
判長ノ命令ニ因リ之ヲ取押ヘ檢察官ノ意見ヲ聽キ直チニ裁判ヲ爲シ又ハ次ノ公判ニ付ス
ルノ言渡ヲ爲ス可シ

書記ハ犯罪ノ事件及ヒ裁判長ノ處分ニ付キ即時ニ調書ヲ作ル可シ

第二百七十四條 前條ノ場合ニ於テ違警罪裁判所ニテハ違警罪ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲シ輕
罪ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス可シ

輕罪裁判所其他上等ノ裁判所ニテハ輕罪ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲ス可シ

十六年四月
二十五號(二第
千二十六)參

第二百七十五條 公廷ニ於テ重罪ヲ犯シタル者アル時ハ裁判長被告人及ヒ證人ヲ訊問シ調
書ヲ作り裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ通常ノ規則ニ從ヒ裁判スル爲メ豫審判事ニ送
付スルノ言渡ヲ爲ス可シ

第二百七十六條 裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可カラズ但辯論ニ因
リ發見シタル附帶ノ事件及ヒ公廷内ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在ラス

若シ附帶ノ事件ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスル時ハ本案ノ裁判ヲ停止スルヲ得

第二百七十七條 檢察官被告人及ヒ民事擔當人ハ始審終審ヲ問ハス本案ノ裁判言渡アルマ
テ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサルノ申立ヲ爲スヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサルノ言渡ヲ爲スヲ得

第二百七十八條 裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ棄却シタル時ハ本案ノ裁判言渡ヲ待タズ直チ
ニ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

第二百七十九條 檢察官其他訴訟關係人ハ第二百三十七條ニ定メタル原由アル時ハ違警罪

裁判所輕罪裁判所控訴裁判所又ハ重罪裁判所ノ裁判官及ヒ書記ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲ス
ヲ得

豫審ヲ爲シタル裁判官其公判ニ干預シ又ハ始審裁判ヲ爲シタル裁判官其終審裁判ニ干預
シタル時亦同シ

第二百八十條 忌避ノ申立ハ本案ノ裁判言渡シニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スヲ得
忌避ノ申立アリタル時ハ本案ノ辯論ヲ停止ス

第二百八十一條 忌避又ハ回避ノ申立及ヒ其判決ヲ爲スニハ第二百三十八條ヨリ第二百四十五條マテニ定メタル規則ニ從フ

第二百八十二條 忌避又ハ回避ノ申立ヲ棄却シタル時ハ前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ニ取掛ル可シ但五日間辯論ヲ停止シタル時ハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ

變災厄難ノ爲メ訴訟手續ヲ停止シタル時亦同シ

第二百八十三條 公判ニ於テ用フ可キ證據ハ豫審ニ於テ用フ可キ證據ニ同シ

第二百八十四條 裁判長ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ豫審中管轄官吏ノ作リタル調書及ヒ檢證書類ヲ朗讀セシムルヲ得
是等ノ書類ハ原被證人ノ陳述ト同一ノ效ヲ有ス

第二百八十五條 調書ヲ作リタル司法警察官ハ檢察官其他訴訟關係人ヨリ證人トシテ之ヲ呼出シ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ呼出スヲ得

豫審判事ハ裁判所ノ職權ニ因リ又ハ檢察官其他訴訟關係人ヨリ其裁判所ノ允許ヲ得テ調書説明ノ爲メ之ヲ呼出スヲ得

第二百八十六條 豫審ニ於テ訊問シタル証人ハ更ニ之ヲ呼出スヲ得

豫審ニ於テ錄取シタル証人ノ陳述書ハ更ニ其証人ヲ呼出サハル時證人呼出ヲ受ケ出廷セサル時又ハ豫審及ヒ公判ニ於テノ陳述ヲ比較スヘキ時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルヲ得

第二百八十七條 第七十八條以下ノ規則ハ公判ノ證人ニモ亦之ヲ適用ス

十五年丙第
十號達(二千
十四)參看

第二百八十八條 証人ハ互ニ言語ヲ接スヘカラス又陳述前辯論ニ立會フ可カラス

第二百八十九條 証人ハ左ノ順序ニ從ヒ訊問ス可シ

一 檢察官ノ請求ニ因リ呼出シタル証人

二 民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人

三 被告人及ヒ民事擔當人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人

第二百九十條 証人數名アル時ハ氏名目錄ノ順序ニ從ヒ之ヲ訊問ス可シ但裁判長ハ證人ヲ呼出シタル者ノ意見ヲ聽キ其順序ヲ變更スルヲ得

第二百九十一條 証人及ヒ被告人ハ裁判長ニ非サレハ之ヲ訊問スルヲ得ス

陪席判事及ヒ檢察官ハ裁判長ニ告ケ證人及ヒ被告人ヲ訊問スルヲ得

訴訟關係人ハ辯論ニ必要ナリトスル條件ヲ分明ナラシムル爲メ證人ヲ訊問ス可キヲ裁判長ニ求ムルヲ得

第二百九十二條 証人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタル時ハ裁判所ニ於テ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ勾引

狀ヲ以テ豫審檢事ニ送致スヘキノ言渡ヲ爲ス可シ
其證人ノ陳述ハ書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ

本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ事件ニ付キ裁判ノ延期ヲ言渡スヲ得

第二百九十三條 証人呼出ニ應セサル時ハ裁判所ニ於テ即時ニ檢察官ノ意見ヲ聽キ左ノ科

料罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス

一 違警罪事件ニ付テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料

二 輕罪以上ノ事件ニ付テハ二圓以上十圓以下ノ罰金

被告人缺席シタル時ハ其呼出シタル證人出廷セスト雖モ科料罰金ヲ言渡ス可カラズ

第二百九十四條 前條ノ言渡書ハ即時ニ書記ヨリ本人ニ送達ス可シ

其言渡ヲ受ケタル者三日内ニ出廷スルヲ能ハサリシ正當ノ事由ヲ證明シタル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ科料又ハ罰金ノ言渡ヲ取消ス可シ但重罪裁判所閉廳ノ後ハ其開廳シタル裁判所ニ其中立ヲ爲ス可シ

第二百九十五條 證人呼出ニ應セサル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公判ヲ延期スルノ言渡ヲ爲スヲ得

檢察官自ラ其請求ヲ爲サハル時ハ公判ノ延期ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

第二百九十六條 證人再度ノ呼出ヲ受ケ仍ホ出廷セサル時ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ前ニ定メタル科料罰金ノ二倍及ヒ再度ノ呼出ノ費用ヲ言渡ス可シ此場合ニ於テモ亦前條ニ從ヒ再ヒ公判ヲ延期スルヲ得但延期シタル時ハ其證人ニ對シ勾引狀ヲ發ス可シ

第二百九十七條 第九十一條以下ノ規則ハ公判ニ於テ新ニ命シタル鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス但呼出ニ應セサル時ハ第二百九十三條ノ規則ニ從ヒ處分ス可シ

鑑定人ノ鑑定シタル事件ニ付キ説明ノ爲メ更ニ之ヲ呼出ス時ハ證人ニ付キ定メタル前數條ノ規則ニ從ヒ處分ス可シ

第二百九十八條 被告人數者啞者又ハ國語ニ通セサル者ナル時ハ第五百五十六條第五百七條ノ規則ニ從フ

第二百九十九條 被告人數名アル時ハ裁判長其意見ヲ述ヘ且檢察官其他訴訟關係人ノ意見ヲ聽キ訊問ノ順序ヲ定ム可シ

裁判長ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ職權ヲ以テ其順序ヲ變更スルヲ得

第三百條 證憑調濟ノ後檢察官民事原告人被告人其辯護人及民事擔當人ハ順次發言ス可シ

檢察官其他訴訟關係人ノ陳述ハ他ヨリ妨礙スルヲ得ス
檢察官其他訴訟關係人ハ迭ヒニ辯論ヲ爲スヲ得但辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ發言セシム可シ

第三百一條 檢察官公訴ヲ抛棄スト雖モ裁判所ニ於テハ本案ニ付キ相當ノ裁判ヲ爲ス可シ

第三百二條 辯論中公判ノ手續ニ付キ異議ノ申立アリタル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ直チニ之ヲ判決ス可シ但其判決ニ對スル控訴又ハ上告ハ本案ノ裁判言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ス

第三百三條 民事擔當人ハ始審終審ヲ問ハス何時ニテモ其訴訟ニ關係スルヲ得

又民事原告人ハ民事擔當人ヲシテ其訴訟ニ關係セシムルヲ得
若シ異議ノ申立アリタル時ハ其裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ其判決ニ對シテハ本案ノ裁判言渡ヲ待タズ直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

第三百四條 裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示シ且一切

ノ證憑ヲ明示ス可シ

免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦同シ

第三百五條 無罪ノ言渡ヲ爲スニハ其理由トシテ被告人ニ對シ犯罪ノ證憑ナキコトヲ明示ス可シ

第三百六條 裁判所ニ於テハ公訴ノ裁判ト同時ニ私訴ノ裁判言渡ヲ爲ス可シ私訴ニ付キ取調未タ充分ナラサル時ハ公訴ノ裁判アリタル後其裁判言渡ヲ爲スコトヲ得

第三百七條 被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴裁判費用ノ全部又ハ幾分ヲ擔當スヘキノ言渡ヲ爲スヘシ

免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴裁判費用ハ官ニテ之ヲ擔當ス可シ
私訴裁判費用ハ民事ノ規則ニ從ヒ敗訴シタル者之ヲ擔當ス可シ

附錄

明治十五年七月七日司法省丙第貳拾六號 大審院裁判所暨視廳 府縣東京府ヲ除ク へ達

治罪法第三百七條第二項公訴裁判費用官ニ於テ擔當スヘキ場合該金額ハ裁判所ヨリ支出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル件々ハ取消候事

第三百八條 被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルト否トヲ問ハヌ沒收ニ係ラサル差押物品ハ所有主ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スルノ言渡ヲナス可シ

第三百九條 本案ノ裁判言渡ニ對スル上訴ノ期限内又上訴アリタル時ハ其判決アルマテ裁判執行ヲ停止ス

第二百十條 禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタル時ハ現ニ捕ニ就クニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二百十一條 勾留ヲ受ケタル者上訴ヲ爲シ又ハ保釋ヲ求ムル時ハ其中立書ヲ監獄長ニ差出シ監獄長ヨリ之ヲ其裁判所ノ書記ニ差出ス可シ

第二百十二條 訴訟關係人又ハ其代人非常ノ變災厄難ニ因リ上訴期限ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ證明シタル時ハ期限ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但變災厄難ヲ免レタルヨリ通常ノ期限内ニ其證據ヲ申立書ニ添へ上訴ヲ爲スヘシ

第二百十三條 書記ハ速ニ前條ノ申立書ヲ對手人ニ送達ス可シ對手人ハ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

上訴ヲ判決ス可キ裁判所ニ於テハ會議局ニテ檢察官ノ意見ヲ聽キ先ツ其上訴ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

上訴ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ書記ヲシテ其旨ヲ訴訟關係人ニ通知セシメ通常ノ規則ニ從ヒ本案ノ裁判ヲ爲ス可シ

上訴ヲ受理ス可カラサル者ト判決シタル時ハ他ノ原由アルニ非サレハ即時ニ裁判執行ヲ爲サシム可シ

第二百十四條 裁判言渡ハ辯論ヲ終リタル後公廷ニ於テ即時ニ之ヲ爲シ又ハ次日ニ之ヲ爲ス可シ
裁判言渡書ハ其言渡前裁判官之ヲ作り書記ト共ニ署名捺印ス可シ

裁判言渡書ニハ其言渡ヲ爲シタル裁判所年月日其事件ニ干預シタル檢察官ノ氏名ヲ記載ス可シ

第二百十五條 訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ裁判言渡書ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタル時ハ書記ヨリ二十四時内ニ之ヲ下付ス可シ

附錄 明治十四年十二月二日司法省甲第七號布達

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

○明治十四年十二月十五日司法省丁第三拾壹號裁判所布達

本年甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ拔書ヲ求ムル者代價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト可心得此旨相達候事

○明治十五年三月廿七日司法省丙第拾貳號裁判所警視廳府布達

明治十四年十二月二日司法省甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ下付スル費用ハ當分違警罪ニ限り徴收セサル様取計ヘシ此旨相達候事

第二百十六條 對審裁判ニ因リ刑ノ言渡アリタル時ハ裁判長ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其言渡ニ對シ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ得可キコト及ヒ其期限ヲ告知シ又闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡アリタル時ハ其言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲ得可キコト及ヒ其期限ヲ言渡書ニ記載ス可シ

若シ其告知又ハ記載ナキ時ハ通常ノ規則ニ從ヒ其告知アルマテ上訴期限ノ經過ヲ停止

ス

第二百十七條 書記ハ各事件ニ付キ各別ニ公判始末書ヲ作り左ノ條件其他一切ノ訴訟手續ヲ記載ス可シ

一 裁判ヲ公行シタルコト又ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡アリタルコト及ヒ其事由

二 被告人ノ訊問及ヒ其陳述

三 證人鑑定人ノ陳述及ヒ宣誓ヲ爲シタルコト若シ宣誓ヲ爲サハル時ハ其事由

四 原被ノ證據物件

五 辯論中異議ノ申立アリタルコト後日ヲ期シテ申立ツ可キ事件ヲ申立タルコト是等ノ事件ニ付キ檢察官其他訴訟關係人ノ意見及ヒ裁判所ノ判決

六 辯論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ發言セシメタルコト

第二百十八條 公判始末書ニハ前條ニ記載シタル條件ノ外言渡ヲ爲シタル裁判所年月日裁判長陪席判事檢察官及ヒ書記ノ氏名ヲ記載ス可シ

辯論數日ニ涉ル時ハ其旨及ヒ同一ノ裁判官出席シタルコトヲ記載ス可シ

辯論中豫備判事ヲシテ代ラシメタル時ハ其旨ヲ記載ス可シ檢察官及ヒ書記ニ付テモ亦同シ

第二百十九條 公判始末書ハ裁判言渡ヨリ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及ヒ書記署名捺印ス可シ

裁判長ハ署名捺印セサル以前ニ公判始末書ヲ檢閲シ若シ意見アル時ハ其紙尾ニ記載ス可シ

十五年丁第
九號(二千四
十二)ヲ以テ
納付方ヲ達ス

第三百二十條 裁判言渡書及ヒ公判始末書ノ正本ハ其裁判所ノ書記局ニ保存ス可シ
上訴アリタル時ハ裁判長及ヒ書記裁判言渡書及ヒ公判始末書ノ謄本ニ認印シ之ヲ上訴書
類ニ添フヘシ

第二章 違警罪公判

第三百二十一條 違警罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

一 檢察官ノ請求ニ因リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀

二 豫審判事又ハ上等ノ裁判所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

第三百二十二條 呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ氏名職業住所出廷ノ日時被告事件及ヒ代
人ヲシテ出廷セシムルヲ得可キ旨ヲ記載ス可シ若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被
告人未タ其證人ヲ呼出サハル時ハ公廷ニテ其事件ノ告知ヲ受ケタル後其呼出及ヒ辯護ノ
爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルヲ得

第三百二十三條 呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

第三百二十四條 違警罪裁判官ハ被告事件急速ヲ要スル時ハ公判ニ取掛ル前檢察官其他訴
訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ對手人ノ立會ヲ要セスシテ檢證處分ヲ爲スヲ得

第三百二十五條 證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼
出スヘシ
又呼出ヲ受ケスシテ出廷シタル者ト雖モ訊問前其名刺ヲ書記ニ差出シタル時ハ裁判所ニ

於テ證人トシテ其陳述ヲ聽クヲ得

第三百二十六條 書記ハ各事件毎ニ訴訟關係人ノ氏名ヲ呼立ツ可シ若シ其呼立ニ應セサル
時ハ他ノ事件ノ裁判ヲ終リタル後其事件ヲ裁判ス可シ

第三百二十七條 違警罪裁判官ハ最初ニ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可
シ

官吏ノ作リタル調書又ハ申立書アル時ハ書記之ヲ朗讀ス可シ

檢察官ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

第三百二十八條 違警罪裁判官ハ被告人ニ被告事件ヲ承認スルヤ否ヲ訊問ス可シ

若シ被告人代人ヲ以テ白狀ヲ爲ス時ハ其署名捺印シタル書面ヲ差出ス可シ

第三百二十九條 被告人ノ白狀アリタル時ハ他ノ證憑ヲ差出スニ及ハス但裁判所ニ於テハ
檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ差出サシムルヲ得

若シ白狀ナキ時ハ原被ノ證人ヲ訊問シ其他證憑アル時ハ之ヲ差出ス可シ

第三百三十條 檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

民事原告人ハ被告事件ヲ證明シ及ヒ要償ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

被告人民事擔當人又ハ其代人ハ答辯ヲ爲ス可シ

第三百三十一條 呼出ヲ受ケタル被告人民事擔當人又ハ其代人出廷セサル時ハ檢察官及ヒ
民事原告人ノ請求スル所ヲ聽キ關府裁判ヲ爲ス可シ

民事原告人出廷セサル時又同シ

第三百二十二條 闕席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ闕席シタル者又ハ

其住所ニ之ヲ送達ス可シ

闕席裁判ヲ受ケタル者故障ヲ爲サントスル時ハ言渡書ノ送達アリタルヨリ二日內ニ其中
立書ヲ書記局ニ差出ス可シ

第三百二十三條 裁判所ニ於テハ先ツ故障ノ申立ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ若シ受理
ス可キ者ト判決シタル時ハ書記ヨリ故障アリタルヲ及ヒ其事件ヲ公判ニ付ス可キ日時ヲ
故障ノ對手人ニ通知スル爲メ呼出狀ヲ送達ス可シ但其送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ
猶豫アル可シ

又公判ニ付ス可キ日時ヲ其前日ニ故障ノ申立人ニ報知ス可シ

第三百二十四條 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ第三百二十六條ヨリ第三百三十條
マテノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

其裁判ニ闕席シタル者ハ故障ヲ爲スコトヲ得ス

第三百三十五條 犯罪ノ證據充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第三百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百三十六條 被告事件違警罪ニシテ且證據充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可
シ

第三百三十七條 被告事件重罪又ハ輕罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ其事件ヲ輕罪裁判所
檢事ニ送致ス可シ但被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第三百二十八條 違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴ス
ルコトヲ得

一 被告人ハ拘留ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時

二 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上治安裁判所ノ終審ノ金額
ヲ超過シタル時

三 檢察官其他訴訟關係人ハ上ニ記載シタル原由アラサル時ト雖モ管轄違越權擬律ノ錯誤
又ハ無效ノ記載アル規則ニ背キタル時

第三百二十九條 控訴ヲ爲サントスル者ハ原裁判所ノ書記局ニ其中立書ヲ差出ス可シ但其
申立ノ期限ハ對審裁判ニ付テハ言渡ヨリ三日內又闕席裁判ニ付キ故障アラサル時ハ本人
又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日內トス

控訴ヲ爲スノ申立アリタル時ハ書記ヨリ其旨ヲ對手人ニ通知ス可シ

第三百四十條 訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ檢察官ヨリ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ之
ヲ送致ス可シ

若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ對手人ナル時ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ檢察官ニ其意見書
ヲ差出ス可シ

第三百四十一條 控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ於テハ書記局ヨリ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發
シタル後其裁判ニ取掛ル可シ
呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

第三百四十二條 控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルマテ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲スコト得
但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ルコト得

第三百四十三條 控訴ニ係ル事件ハ輕罪ノ裁判ヲ爲スニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判
ス可シ

檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル證人又ハ始審ニ於テ陳述
シタル證人ヲ呼出スコトヲ得ス

第三百四十四條 控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ
之ヲ取消シ更ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス
私訴ニ付テノ控訴ノ裁判ハ通常民事ノ規則ニ從フ

第三百四十五條 第三百三十一條以下ノ規則ハ控訴ノ闕席裁判ニ付テモ亦之ヲ適用ス
第三百四十六條 檢察官其他訴訟關係人ハ違警罪事件ノ終審ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ
爲スコトヲ得

第三章 輕罪公判

第三百四十七條 輕罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

- 一 檢察官ノ請求ニ因リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀
- 二 豫審判事輕罪裁判所會議局又ハ上等ノ裁判所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

第三百四十八條 呼出狀ニ付テハ第三百二十二條第三百二十三條ノ規則ニ從フ

第三百四十九條 被告事件罰金ノ刑ニ該ル可キ時ハ代人ヲシテ出廷セシムルコトヲ得可キ旨
ヲ呼出狀ニ記載ス可シ

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ代人ヲシテ出廷セシムルコトヲ得

第三百五十條 證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可
シ

第三百五十一條 第三百二十四條ノ規則ハ豫審ヲ經サル輕罪事件ニモ亦之ヲ適用ス

第三百五十二條 檢察官ハ裁判長ヨリ被告人ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地ヲ問ヒタル
後被告事件ヲ陳述ス可シ

民事原告人ハ被告事件ヲ證明ス可シ

調書又ハ申立書アル時ハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ次ニ原被證人ノ陳述ヲ聽キ且證據物
件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ

被告人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲ス可シ

第三百五十三條 檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ
民事原告人ハ要價ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辯ヲ爲スコトヲ得

第三百五十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人又ハ第二百六十九條ノ規則ニ從ヒ闕席裁判ヲ
爲スコトヲ得可キ被告人共呼出ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第三百五十五條 闕席裁判ニ關スル第三百三十一條ヨリ第三百三十四條マテノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

第三百五十六條 闕席裁判ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ左ノ場合ヲ除クノ外刑ノ期滿免除ニ至ルマテ故障ヲ爲スコトヲ得

一 被告人本案ノ裁判前豫メ裁判スヘキ事件ヲ申立タル時
二 裁判言渡書ヲ本人ニ送達シタル時

三 被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタルノ證アル時
第一ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ第二第三ノ場合ニ於テハ言渡アリタルコトヲ知リタルヨリ三日内ニ故障ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七條 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新ナル證人ヲ呼出シ鑑定人ヲ命シ若クハ臨檢ヲ爲スコトヲ得但是等ノ處分ヲ爲スニ付テハ第三編第三章ニ定メタル規則ニ從フ

又豫審ヲ經サル事件ニ付テハ豫審判事ヲシテ其指示スル所ノ條件ニ付キ取調ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムルコトヲ得

第三百五十八條 犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スコシ
又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲スコシ
本條ノ場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言渡ヲ爲スコシ

第三百五十九條 被告事件違警罪ナル時ハ終審ノ裁判言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタル

時ハ釋放ノ言渡ヲ爲スコシ

第三百六十條 被告事件重罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ若シ豫審ヲ輕サル時ハ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲スコシ但被告人勾留ヲ受ケサル時ハ勾引狀ヲ發スコシ

訴訟書類及ヒ證據物件ハ檢察官ヨリ之ヲ豫審判事ニ送致スコシ

第三百六十一條 被告事件豫審ヲ經タル時ハ之ヲ其裁判所ノ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲スコシ

會議局ニ於テハ第二百五十三條第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ取調ヲ爲シ被告人ヲ管轄裁判所ニ送付スルノ言渡ヲ爲スコシ

第三百六十二條 會議局ノ言渡ニ因リ事件ヲ受理シタル場合ニ於テ新ナル證憑ヲ發遣スルコトヲクシテ其事件ヲ重罪ナリトスル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スコシ

檢察官大審院ニ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スコシ
第三百六十三條 前二條ノ場合ニ於テハ會議局又ハ大審院ノ判決アルマテ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ被告人ヲ其裁判所ノ監倉ニ留置スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

又第二百十條以下ノ規則ニ從ヒ保釋ニ付キ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十四條 被告事件輕罪ニシテ且證憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲スコシ
被告人禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ當然保釋責付ヲ取消シタル者トス但上訴中更ニ保釋ヲ求ムルコトヲ得

第三百六十五條 檢察官其他訴訟係關人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シ控

訴訟裁判所ニ控訴スルコトヲ得

一 檢察官ハ無罪免許又ハ刑ノ言渡アリタル時但違警罪事件トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時

二 被告人ハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ受ケタル時

三 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上始審裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

四 檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無效ノ記載アル規則ニ背キタル時

第三百六十六條 控訴ハ裁判言渡アリタルヨリ五日內ニ之ヲ爲スコトヲ得
關席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得但第三百五十六條ノ場合ニ於テハ五日內ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條 公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ檢察官ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移スコトヲ得

第三百六十八條 第三百二十九條ヨリ第三百四十二條マテ及ヒ第三百四十四條ノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

第三百六十九條 輕罪裁判所檢事ノ控訴又ハ檢事長ノ附帶ノ控訴アリタル場合ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスル時ハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ會議局ニ於テ重罪裁判所ニ移スコトヲ爲スコトヲ得

第三百七十條 控訴ノ關席裁判及ヒ其故障ニ付テハ始審ノ關席裁判及ヒ其故障ニ付キ定メ

タル規則ニ從フ

第三百七十一條 檢察官其他訴訟關係人ハ輕罪裁判所ノ終審ノ對審裁判言渡及ヒ控訴裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第四章 重罪公判

第三百七十二條 重罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

一 豫審判事又ハ輕罪裁判所會議局ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スコトヲ爲ス

二 控訴裁判所又ハ大審院ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スコトヲ爲ス

第三百七十三條 重罪裁判所ニ移スコトヲ爲ス言渡確定シタル時ハ左ノ區別ニ從ヒ公訴狀ヲ作ル可シ

控訴裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ檢事長公訴狀ヲ作ル可シ

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ檢事長公訴狀ヲ作り又ハ重罪裁判所檢察官ノ職務ヲ行フ可キ檢事ヲシテ之ヲ作ラシム可シ

第三百七十四條 公訴狀ニハ左ノ條件ヲ記載スコトヲ得

一 被告事件ノ始末及ヒ加重減輕ノ模様

二 被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地

三 豫審ニ於テ集取シタル原被告ノ證憑

四 罪名法律ノ正條及ヒ重罪裁判所ニ移スコトヲ爲ス言渡ノ概略

第三百七十五條 公訴狀ニハ重罪裁判所ニ移スコトヲ爲ス言渡書ニ記載シタルヨリ以外ノ事件又ハ

被告人ヲ記載ス可カラス

第三百七十六條 重罪裁判所ニ移スノ言渡書ニ同一ノ被告人ニ對シ附帶ニ非サル數箇ノ重罪ヲ記載シタル場合ニ於テ檢察官ハ各別ニ公訴狀ヲ作りタル上ニテ各別ニ辯論ヲ爲スヲ裁判所長ニ請求スルヲ得

裁判所長ハ同一ノ公訴狀ニ附帶ニ非サル數箇ノ重罪ヲ記載シタル場合ニ於テ其職權ヲ以テ各別ニ辯論ヲ爲サシムルヲ得又數箇ノ公訴狀ニ記載シタル事件ニ付キ同時ニ辯論ヲ爲サシムルヲ得

第三百七十七條 書記ハ被告人出廷ヨリ少クトモ五日前ニ公訴狀ノ謄本ヲ被告人ニ送達ス可シ

被告人數名アル時ハ各別ニ其謄本ヲ送達ス可シ

第三百七十八條 重罪裁判所長又ハ其委任ヲ受ケタル陪席判事ハ公訴狀ノ送達アリタルヨリ二十四時ノ後書記ノ立會ニ依リ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタリヤ否ヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサル時ハ裁判所長ノ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ代官人中ヨリ之ヲ選任ス可シ

被告人及ヒ代官人ヨリ異議ノ申立ナキ時ハ代官人一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルヲ得

辯護人ヲ選任シタルヨリ三日ノ後ニ非サレハ辯論ニ取掛ルヲ得ス

第三百七十九條 辯護人差支アル時若クハ被告人ヨリ之ヲ改選ス可キ正當ノ事由ヲ申立タル時被告人自ラ辯護人ヲ選任スルニ非サレハ前條ノ規則ニ從ヒ裁判所長ヨリ之ヲ選任ス可シ但辯護人ヲ改選シタル時ハ三日間辯論ヲ停止ス可シ

第三百八十條 書記ハ第三百七十八條ノ場合ニ於テ訊問ノ調書ヲ作り辯護人ヲ選任スルニ付キ其式ヲ履行シタルヲ記載ス可シ

辯論中辯護人ヲ改選シ及ヒ辯論ヲ停止シタル時ハ公判始末書ニ其旨ヲ記載ス可シ

第三百八十一條 辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ效ナカル可シ

第三百七十七條ヨリ第三百七十九條マテノ規則ニ背キタルヲアリト雖モ辯論ニ取掛ル前ニ非サレハ被告人ヨリ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ス

附錄 明治十五年一月九日第壹號布告

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ效ナカルヘシト有之候得共其裁判所所屬ノ代官人無之場所ニ於テハ當分ノ内辯護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラス

右奉 勅旨布告候事

第三百八十二條 辯護人ハ第三百七十八條ノ處分アリタル後被告人ト接見スルヲ得

又書記局ニ於テ一切ノ訴訟書類ヲ閱讀シ且之ヲ抄寫スルヲ得

辯護人ヲ除クノ外何人ト雖モ重罪裁判所ニ移スノ言渡アリタルヨリ裁判言渡アルマテ被告人ト接見スルヲ得但被告人現ニ勾留ヲ受クル地ノ裁判所長ノ允許ヲ得タル時ハ此

限ニ在ラス

第三百八十三條 檢察官及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人ノ氏名目録ハ開廷ヨリ一日前之ヲ被告人ニ送達ス可シ

被告人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人ノ氏名目録ハ同上ノ期限内ニ書記ヨリ之ヲ檢察官ニ送致シ民事ニ付キ呼出シタル證人ノ氏名目録ハ之ヲ民事原告人ニ送達ス可シ

第三百八十四條 前條ノ規則ニ從ヒ豫メ氏名ヲ通知セサル證人ノ陳述ハ事實參考ノ爲メニ非サレハ之ヲ聽クコトヲ得ス但對手人ヨリ異議ナキコトヲ申立タル時ハ證人トシテ其陳述ヲ聽クコトヲ得

第三百八十五條 證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

第三百八十六條 裁判長ハ開廳ノ日ニ當リ公廷ニ於テ陪席判事檢察官ノ面前ニテ開廳ス可キコトヲ陳述ス可シ但被告人ヲ呼出ス可カラズ

第三百八十七條 裁判長辯論二日以上ニ渉ルヘシト思料シタル時ハ重罪裁判所々在ノ地ノ裁判所判事一名ヲ以テ豫備陪席判事ト爲スコトヲ得

第三百八十八條 裁判官檢察官及ヒ書記各其席ニ就キタル後即時ニ訊問及ヒ辯論ニ取掛ル可シ

裁判長ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可シ
若シ其答辭ト豫審中ノ陳述ト齟齬アリト雖モ公訴狀ニ記載シタル被告人ニ相違ナキ時ハ

引續キ辯論ヲ爲ス可シ

第三百八十九條 書記ハ呼出シタル證人ノ氏名ヲ呼立ツ可シ

其呼立ニ應シタル證人ハ扣席ニ退カシメ陳述ヲ爲スニ當リ順次ニ之ヲ呼入ル可シ

第三百九十條 裁判長ハ書記ヲシテ公訴狀ヲ朗讀セシムルニ付キ注意シテ聽ク可キコトヲ被告人ニ告知ス可シ

第三百九十一條 裁判長ハ書記前條ノ朗讀ヲ終リタル後被告人ヲ訊問ス可シ

被告人豫審中ニ白狀シタル事件ヲ確認セス又ハ之ヲ取消サントスル時ハ其事由ヲ辯明セシム可シ

被告人ノ白狀アリト雖モ仍ホ其取調ヲ爲サハル可カラズ

第三百九十二條 裁判長ハ前條ノ訊問ヲ終リタル後證憑ヲ差出スニ從ヒ其證憑ニ付辯解ヲ爲シ且自己ノ利益ト爲ル可キ反證ヲ差出スヲ得可キコトヲ被告人ニ告知ス可シ

第三百九十三條 裁判長ハ原告證人陳述ヲ終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フ可シ

第三百九十四條 證人ハ陳述ヲ爲シタル後其扣席ニ留ル可シ但裁判長ヨリ退廷ノ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラス

陪席判事檢察官被告人及ヒ民事原告人ハ更ニ證人ヲ訊問スルコト又證人ヲシテ他ノ証人ト對質セシムルコトヲ請求スルヲ得

裁判長ハ職權ヲ以テ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條 裁判長ハ証人愛憎畏懼ノ念ヲ生シ被告人ノ面前ニ於テ充分ナル陳述ヲ爲スコトヲ得サル可シト思料シタル時ハ檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其證人ノ陳述中被告人ヲ退席セシムルコトヲ得

裁判長ハ證人陳述ヲ終リタル後再び被告人ヲ公庭ニ呼入レ其陳述シタル條件ヲ告知シ且被告人ニ意見アル時ハ之ヲ申立シム可シ

第三百九十六條 裁判長ハ第三百條ニ定メタル手續ノ終リタル後公訴ニ付キ辯論ノ終結シタルコトヲ言渡ス可シ

第三百九十七條 檢察官及ヒ被告人ハ辯論中ニ發見シタル條件ニ付豫審ヲ求ムルコトヲ得裁判所ニ於テ其請求ヲ認可シタル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシム可シ

第三百五十七條第一項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百九十八條 辯論終結ノ言渡アリタル時ハ檢察官法律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ辯護人ハ檢察官ノ意見其當ヲ得サルコトヲ辯論スルヲ得

第三百九十九條 前條ノ辯論ヲ終リタル後民事原告人ハ私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

檢察官ハ私訴ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

裁判所ニ於テハ私訴ノ辯論ヲ延期スルコトヲ得但閉廳前之ヲ判決ス可シ

第四百條 被告事件重罪ニシテ且證據充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

第四百一條 犯罪ノ證據充分ナラサル時ハ無罪ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

又原被ノ要償ニ付キ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百二條 辯論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判ス可シ

第四百三條 檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百四條 關席裁判ヲ爲スニハ裁判長書記ヲシテ公訴狀及ヒ必要ナリトスル豫審書類ヲ朗讀セシメ又原被証人ノ陳述ヲ聽ク可シ

檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ民事原告人ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

民事擔當人ハ答辯スルコトヲ得

第四百五條 關席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達ス可シ

第四百六條 關席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シテハ檢察官ニ非サレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ノ裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百七條 關席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スコトヲ得但捕ニ就キタル時ハ十日内ニ故障ヲ爲ス可シ

第四百八條 故障ノ申立ハ關席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

重罪裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

第四百九條 關席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲ス可シ

控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ク可キノ言渡ヲ爲ス可シ

第五編 大審院ノ職務

第一章 上告

第四百十條 檢察官及ヒ被告人ハ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ爲ス可キヲ得

一 法律ニ背キ忌避ノ申立ヲ認可セサル時

二 裁判所ノ構成規則ニ背キタル時

三 法律ニ背キ管轄違又ハ管轄ナリトノ言渡若クハ管轄ニ非サル裁判所ニ事件ヲ移スノ言渡アリタル時

四 法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時又ハ無効ノ記載ナキ規則ニ背キタルニ因リ異議ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ認可セサル時

五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサル時

六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時

七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得可キ場合ヲ除クノ外請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタル時

八 裁判言渡ヲ公行セス又ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡ナクシテ訊問及ヒ辯論ヲ公行セサル時

九 事實及ヒ法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アル時

十 摺律ノ錯誤アル時

十一 越權ノ處分アル時

第四百十一條 免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタルコト又ハ犯罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ上告ヲ爲ス可キヲ得ス

第四百十二條 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ第四百十條ニ定メタル理由ニ付キ上告ヲ爲ス可キヲ得

第四百十三條 上告ノ對手人ハ大審院ノ判決アルマテ何時ニテモ附帶ノ上告ヲ爲ス可キヲ得大審院檢察長モ亦附帶ノ上告ヲ爲ス可キヲ得

第四百十四條 上告ノ期限ハ三日ナリトス但豫審ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ起算シ公判ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算ス

第四百十五條 豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告アリタル時ハ勾留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言渡ヲ除クノ外其執行ヲ停止ス

第四百十六條 上告ヲ爲サントスル者ハ其申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

上告ノ申立書ハ其申立アリタルヨリ二十四時内ニ書記ヨリ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百十七條 上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百十八條 對手人ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ五日内ニ答辯書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ其答辯書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ上告申立人ニ送達ス可シ

第四百十九條 檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書ハ二通ヲ作り一通ヲ大審院ニ差出シ一通ヲ對手人ニ送達ス可シ

私訴ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書ニ付テモ亦同シ

第四百二十條 書記ハ前數條ニ定メタル期限經過シタル後速ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其裁判所ノ檢察官ニ差出ス可シ

檢察官ハ其書類ヲ五日内ニ大審院檢察長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ添フ可シ

檢察長ハ上告事件ヲ刑事局ノ簿冊ニ登記ス可キヲナシ院長ニ請求ス可シ

第四百二十一條 上告申立人及ヒ對手人ハ代官人ヲ差出ス可キヲ得

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ重罪ノ刑ニ該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代官人ヲ選任セサル時ハ院長ノ職權

ヲ以テ其院所屬ノ代官人中ヨリ之ヲ選任ス可シ

第四百二十二條 院長ハ刑事局判事ニテ專任判事一名ヲ命ス可シ

專任判事ハ一切ノ書類ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ但自己ノ意見ヲ付ス可カラズ

第四百二十三條 上告申立人及ヒ對手人ハ專任判事ノ報告書ヲ差出スマテハ大審院書記局ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ辯明書ヲ差出ス可キヲ得

專任判事報告書ヲ差出シタル後辯明書ヲ差出シタル時ハ之ヲ其報告書ニ添フ可シ

第四百二十四條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代官人ニ報知ス可シ

第四百二十五條 開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專任判事其報告書ヲ朗讀ス可シ

檢察長及ヒ代官人ハ各其趣意ヲ辯明ス可シ

私訴ノ上告ニ付テハ檢察長最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

第四百二十六條 上告申立人又ハ對手人ヨリ代官人ヲ差出サハル時ハ其儘ニテ判決ヲ爲ス可シ

第四百二十七條 大審院ニ於テ上告ノ理由ナシトスル時ハ之ヲ棄却スルノ言渡ヲ爲ス可シ

第四百二十八條 大審院ニ於テ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對スル上告ニ付キ破毀ノ原由アリトスル時ハ其言渡ノ全部ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ但後ノ數條ニ記載シタル場合ハ此限ニアラス

第四百二十九條 攪律ノ錯誤若クハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルヲ因リ原裁

第五部 第三編 第三章

第六百十七

判言渡ヲ破毀シタル時ハ其事件ヲ移スコトナク大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百三十條 豫審又ハ公判ノ手續規則ニ背キタルコトアリト雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ホサハル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク止メ其手續ヲ破毀ス可シ

第四百三十一條 豫審又ハ公判ノ言渡ノ幾分ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ關係アラサル時ハ大審院ニ於テ其上告ニ係ル部分ヲ破毀シ法律ニ從ヒ直チニ相當ノ裁判言渡ヲ爲シ又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

第四百三十二條 大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム可シ

第四百三十三條 大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可キ時ハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所ニ移ス可シ

第四百三十四條 法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確定ノ者トス

大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條 法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタル時ハ大審院檢事長ヨリ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スコトヲ得
非常上告アリタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百三十六條 左ノ場合ニ於テハ大審院ノ裁判言渡ニ對シ檢事長其他訴訟關係人ヨリ其院ニ哀訴スルコトヲ得

一大審院ニ於テ前數條ニ定メタル式ヲ履行セサル時

二訴訟關係人ヨリ申立タル條件ニ付判決ヲ爲サハル時

三同一ノ裁判言渡ニ付キ二箇ノ條件齟齬シタル時

第四百三十七條 哀訴ヲ爲サントスル者ハ裁判言渡アリタルヨリ三日内ニ書記局ニ其中立ヲ爲ス可シ

書記ハ申立書ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ同一ノ期限内ニ其答辯書ヲ差出ス可シ

大審院ニ於テハ通常上告ノ規則ニ從ヒ哀訴ノ判決ヲ爲ス可シ

第四百三十八條 大審院ノ裁判言渡ハ其言渡アリタルヨリ三日内又哀訴アリタル時ハ其判決アルマテ執行ヲ停止ス

第二章 再審ノ訴

第四百三十九條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確證アリタル時

二同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スニテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

三犯罪アル以前ニ作リタル公正ノ證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シタル時
四被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時
五公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタル時
第四百四十條 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得可キ者左ノ如シ

一刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官

二刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢察官

三大審院檢察長但司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲スコシ

四刑ノ言渡ヲ受ケタル者

五刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬

第四百四十一條 再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラズ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條 再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原裁判言渡書ノ謄本及ヒ證書

類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ大審院檢察長ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官及ヒ控訴裁判所檢察長自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスル時ハ前項ノ手續ニ

從ヒ其書類ヲ差出ス可シ

第四百四十三條 大審院ニ於テハ檢察長ノ請求ニ因リ速ニ專任判事一名ヲシテ其取調ヲ爲

シ報告書ヲ差出サシム可シ

第四百四十四條 大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ閣キ刑事局判事全員會議局ニ集會シ專任判事

ノ報告書及ヒ檢察長ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲スコシ

第四百四十五條 大審院ニ於テ再審ノ原由アルコトヲ認メタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ公訴

及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲スコキコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移

ス可シ

其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ裁判ヲ爲スコシ

第四百四十六條 死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由ア

ルコトヲ認メタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク原裁判言渡ヲ破毀ス可シ

第四百四十七條 再審ノ裁判ニ因リ無罪ノ言渡アリタル時又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言

渡アリタル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ揭示公告ス可シ

第三章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

第四百四十八條 通常裁判所ト特別裁判所トヲ問ハズ管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シ其言渡確

定シタル時又忌避ノ原由若クハ非常ノ事變ニ因リ訴訟事件ヲ管理スルコト能ハサル時ハ檢

察官其他訴訟關係人ヨリ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スコトヲ得

大審院檢察長ハ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲スコトヲ得

第四百四十九條 裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ訴訟書類ヲ添ヘ之

ヲ大審院ノ書記局ニ差出ス可シ

第四百五十條 大審院ニ於テハ刑事局判事五名以上會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ

檢察長ノ意見書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決シ其事件ヲ管理ス可キ裁判所ヲ定示

ス可シ

第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

第四百五十一條 犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アル時ハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移ス

一ヲ得

第四百五十二條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法卿ノ命ニ因リ大審院檢事長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

第四百五十三條 大審院ニ於テハ會審局ニテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク速ニ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十四條 被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサルノ恐アル時ハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

第四百五十五條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十六條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ答辯書ヲ差出ス

一ヲ得

第四百五十七條 大審院ニ於テハ第四百五十條ノ規則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴アリタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ停止ス

第六編 裁判執行復権及ヒ特赦

第一章 裁判執行

第四百五十九條 重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラズ

第四百六十條 死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出ス可シ

司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲スヘシ

第四百六十一條 死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行スヘシ

第四百六十二條 刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官又ハ大審院ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ之ヲ爲スヘシ

罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ之ヲ徴收スヘシ

破壞又ハ廢棄スヘキ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス可シ

第四百六十三條 死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作り刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺名スヘシ

其他刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四百六十四條 裁判言渡確定シ又ハ關席裁判アリタル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所

十四年丙第
廿五號達(二)
千四十一(參)

十四年丙第
拾九號達(二)

千七百一十一同
丁第三拾三號
達(二千七百
二)同丁第三
拾四號達(二
千七百十三)ヲ
以テ既決犯罪
表式ヲ定ム

ノ書記既決犯罪表ヲ作り左ノ條件ヲ記載ス可シ但大審院ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ル可シ

一犯人ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地

二罪名刑名

三再犯

四裁判言渡ヲ爲シタル年月日

五對審裁判又ハ關席裁判

第四百六十五條 既決犯罪表ハ二通ヲ作り一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置スヘシ

違警罪ノ既決犯罪表ハ一通ヲ作り其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

第四百六十六條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

第四百六十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ

裁判所ニ於テ本犯ナルコトヲ認定スルコト能ハサル時ハ事實參考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被ノ證人ヲ呼出スコトヲ得

第四百六十八條 前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ對シテハ上訴ヲ許サス

第四百六十九條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還スヘキ裁判費用ニ付キ其言渡ノ執行ハ通常民事ノ規則ニ從フ

第二章 復權

第四百七十條 復權ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ爲スヘシ

復權ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ住スル地ノ始審裁判所檢察事ニ之ヲ差出スヘシ

第四百七十一條 復權ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

- 一 裁判言渡書ノ原本
 - 二 主刑ノ滿期特赦又ハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類
 - 三 假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタルノ證書
 - 四 賠償及ヒ裁判費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免カレタルノ證書
 - 五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類
- 第四百七十二條 檢察事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁判所檢察事長ニ差出ス可シ
- 第四百七十三條 檢察事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復權ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法卿ニ差出ス可シ
- 第四百七十四條 司法卿ハ復權ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ其願ヲ允許ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ

第四百七十五條 勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ因リ復權ノ願ヲ棄却シタル時ハ司法卿ヨリ其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ通知ス可シ前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス

更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ從フ

第四百七十六條 復權ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ送致スヘシ

檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付スヘシ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言渡書ニ記入スヘシ

第三章 特赦

第四百七十七條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ルコトヲ得

監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由スヘシ但檢察官ハ意見書ヲ添フヘシ

特赦ノ申立アリタル時ハ司法卿ヨリ其書類ニ意見書ヲ添へ上奏ス可シ

第四百七十八條 司法卿ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得

死刑ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第四百七十九條 特赦ノ申立棄却アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢

察官ニ其旨ヲ通知ス可シ

第四百八十條 特赦ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

○第二章 治罪ニ係ル雜件

○第一節 書類送達方及送達書令狀宣誓書様式

第二百二十四十三

明治十六年七月十四日司法省丙第四號 大審院裁判所審視廳へ送府縣東京府ヲ除ク

監倉若クハ獄舎ニ在ル被告人へ送達スヘキ渾テノ書類ハ裁判所ヨリ監獄署へ送達ノ手續ヲ嘱托シ該署ニ於テハ規則ニ從ヒ本人ニ送達シ令狀ハ其正本其他ハ送達書ノ一本ヲ裁判所へ返還スヘキ様取計ベシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ渾テ取消候事

第二百二十四十四 明治十四年十二月十二日司法省丁第貳拾八號 大審院裁判所へ達

治罪法中ニ掲ケタル送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收監狀及宣誓書式別紙ノ通相定候條右ニ照準ス可シ此旨相達候事

別紙

用紙美濃ノ類

送達書

受取人ノ署名

輪廓寸法凡 縦七寸五分 横五寸四分

〔ハ〕ヲ施スモ
ノ及ヒ何裁判
所トアル角印
并テハ總テ
朱以下同シ

〔一〕送達スヘキ書名		壹冊	
〔二〕同		壹通	
右使丁ヲ以テ〔何府縣下何町又ハ何國何郡何村何番地何某へ〕送達セシムル者也			
明治 年 月	何裁判所之日		
〔何〕裁判所		書記〔氏名印〕	
捺印若シ能ハサル時ハ其事		送達シタル月日時	
親屬雇人若クハ戸長へ書類ヲ渡シタル時ハ其事由		送達シタル場	
右致送達候也		使丁〔氏名印〕	
是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ一葉ヲ書記局へ還納ス可シ			
送達書			



〔一〕送達スヘキ書名		壹冊	
〔二〕同		壹通	
右使丁ヲ以テ〔何府縣下何町又ハ何國何郡何村何番地何某へ〕送達セシムル者也			
明治 年 月	何裁判所之日		
〔何〕裁判所		書記〔氏名印〕	
受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事		送達シタル月日時	
親屬雇人若クハ戸長へ書類ヲ渡シタル時ハ其事由		送達シタル場	
右致送達候也		使丁〔氏名印〕	
此呼出狀ハ出頭ノ節書記局ニ差出ス可シ			
受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由			
〔住所身分職業〕〔氏名〕			
呼出狀			

第五部 第三編 第貳章 第壹款

右〔云々〕ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀有之來ル〔何月日時何〕所ニ出頭可致者也

但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルコアル可シ

何裁判
明治 年 月 日
〔何〕裁判所

豫審判事〔氏名印〕
書記〔氏名印〕



送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日
使丁〔氏名印〕

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

此呼出狀ハ出頭ノ節書記局ニ差出ス可シ

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

右〔云々〕ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀有之來ル〔何月日時何〕所ニ出頭可致者也

但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルコアル可シ

何裁判
明治 年 月 日
〔何〕裁判所

豫審判事〔氏名印〕
書記〔氏名印〕

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

使丁〔氏名印〕

召喚狀

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

右〔云々〕ノ事件ニ付訊問ノ筋

有之〔何月日時〕當裁判所ニ出

頭可致者也

明治年月日

何裁判所之時所之印

〔何〕裁判所

豫審判事〔氏名印〕

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若クハ戸長へ書類ヲ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治年月日

書記〔氏名印〕

使丁〔氏名印〕

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ



召喚狀

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

右〔云々〕ノ事件ニ付訊問ノ筋

有之〔何月日時〕當裁判所ニ出

頭可致者也

明治年月日

何裁判所之時所之印

〔何〕裁判所

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若クハ戸長へ書類ヲ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

豫審判事〔氏名印〕
書記〔氏名印〕

明治年月日
使了〔氏名印〕

〔檢事官印〕 勾引狀

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

〔若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等〕

右〔云々〕ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當
裁判所へ勾引ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索
ス可シ

勾引シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ル時ハ其事由	執行シタル月 日時	執行シタル場 所	執行ノ手續 〔被告人ニ正本ヲ示シ贖本ヲ下付ス〕	家宅搜索ヲ爲 シタル時ハ其 事由	勾引スルノ能 ハサル時ハ其 事由
--------------------------------------	--------------	-------------	----------------------------	------------------------	------------------------

右之通取扱候也

明治年月日

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

明治年月日
何裁判所之印

〔何〕裁判所

豫審判事〔氏名印〕
書記〔氏名印〕



〔檢事官印〕 勾引狀

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

〔若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等〕

右〔云々〕ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當
裁判所へ勾引ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索

勾引シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ル時ハ其事由	執行シタル月 日時	執行シタル場 所	執行ノ手續 〔被告人ニ正本ヲ示シ贖本ヲ下付ス〕	家宅搜索ヲ爲 シタル時ハ其 事由	勾引スルノ能 ハサル時ハ其 事由
--------------------------------------	--------------	-------------	----------------------------	------------------------	------------------------

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ
一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

ス可シ

明治 年 月 日

〔何〕裁判所 何裁判所之印

豫審判事 〔氏名印〕

書記 〔氏名印〕

右之通取扱候也

明治 年 月 日

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

〔檢事官印〕 勾 留 狀

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

〔若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等〕

右〔云々〕ノ事件ニ付治罪法第百二十
六條ノ規則ニ從ヒ〔何所〕監倉ヘ勾留
ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索

勾留シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ルハ其事由	執行シタル月 日時	執行シタル場 所	執行ノ手續 〔被告人ニ正本ヲ示シ贖本ヲ下付ス〕	家宅搜索ヲ爲 シタル時ハ其 事由
-------------------------------------	--------------	-------------	----------------------------	------------------------

スヘシ

明治 年 月 日

〔何〕裁判所 何裁判所之印

豫審判事 〔氏名印〕

書記 〔氏名印〕

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

右之通取扱候也

明治 年 月 日 時

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

〔檢事官印〕 勾 留 狀

〔住所身分職業〕

〔氏名〕

〔若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等〕

右〔云々〕ノ事件ニ付治罪法第百二十

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

勾留シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ルハ其事由	執行シタル月 日時	執行シタル場 所	執行ノ手續 〔被告人ニ正本ヲ示シ贖本ヲ下付ス〕
-------------------------------------	--------------	-------------	----------------------------

第五部 第三編 第二章 第壹款

六條ノ規則ニ從ヒ(何所)監倉ヘ勾留
ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索
ス可シ

明治 年 月 日
何裁判
所之印

〔何〕裁判所

豫審判事 (氏名印)
書記 (氏名印)

家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其
由

勾留スルハ其
ハサレハ其
申由

右之通取扱候也

明治 年 月 日 時

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

〔檢事官印〕 收 監 狀

〔住所身分職業〕

〔○未遂犯ニ付減等○未丁年ニ付減
等○自首ニ付減等○再犯ニ付加重
氏 名〕

〔若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等〕

收監シタル被
告人ノ署名捺
印ハ其申由
ル時ハ其申由
執行シタル月
日時
執行シタル場
所

右(云々)ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル

處本罪刑法第(何)條ニ該ル可キ者ト

思料ス依テ檢事ノ意見ヲ聞キ(何所)

監倉ニ收監ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索

ス可シ

明治 年 月 日

何裁判
所之印

〔何〕裁判所

豫審判事 (氏名印)
書記 (氏名印)

執行ノ手續 〔被告人ニ正本ヲ示シ原本ヲ下付ス〕

家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其
由

收監スルハ其
ハサレハ其
申由

右之通取扱候也

明治 年 月 日 時

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

〔檢事官印〕

收 監 狀

〔住所身分職業〕

〔○未遂犯ニ付減等○未丁年ニ付減
等○自首ニ付減等○再犯ニ付加重
氏 名〕

收監シタル被
告人ノ署名捺
印ハ其申由
ル時ハ其申由
執行シタル月
日時

第五部 第三編 第二章 第壹款

〔若シ氏名分明ナラサ
ルキハ容貌体格等〕

右〔云々〕ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル
處本罪刑法第〔何〕條ニ該ル可キ者ト
思料ス依テ檢事ノ意見ヲ聽キ〔何所〕
監倉ニ收監ス可キ者也
但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索
ス可シ

明治 年 月 日

何裁判
所之時
印

〔何〕裁判所
豫審判事 〔氏名印〕
書記 〔氏名印〕

執行シタル場 所 〔被告人ニ正本ヲ示シ原本ヲ下付ス〕	執行ノ手續 〔家宅搜索ヲ爲 シタル時ハ其 由〕	收監スルニ能 ハサル時ハ其 事由	右之通取扱候也 明治 年 月 日 時 〔巡查又ハ憲兵氏名印〕
----------------------------------	----------------------------------	------------------------	--------------------------------------

宣誓書

ハハヲ施スモ
ハハ朱

〔何々ノ〕事件ニ付愛憎畏懼ノ
心ナク總テ正實ニ
キトヲ誓フ

通
証人
〔氏名印〕

明治 年 月 日

通
譯
〔氏名印〕

第二千二百四十五 明治十四年十二月十九日司法省丙第拾七號 警視廳府縣東へ達
治罪法令狀様式別紙丁第貳拾八號ノ通大審院裁判所へ相達候條其旨可相心得且司法警察官
ニ於テ令狀ヲ發スル時ハ右ニ照準シテ取計フ可シ此旨相達候事〔別紙前出〕

○第貳款 既決囚ノ逃走シタル者及外國公使館ニ傭ハレタル者ニ對シ逮捕狀及令狀等ヲ發スル手續

第一千二百四十六上

達

明治十四年十二月廿八日司法省丙第貳拾號大審院裁判所警視廳へ

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

第一千二百四十六下

明治十五年二月十四日司法省丙第六號大審院裁判所警視廳へ達

治罪法(二千二百四十二)及同條附錄十一年可丁第拾四號達參看

始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スル手續ハ左之通心得可シ此旨相達候事

第一條 逮捕狀ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第貳號書式ニ準シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記スヘシ

但管轄地ノ内外ニ拘ハラヌ急遽ノ際巡査ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セサルモ妨ナシ

第二條 管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三條 管轄地外ハ第壹號書式ニ準シ人相書ヲ作り之ヲ始審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕狀ヲ作り之ヲ管轄地内

ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ
第四條 司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲ス可シ

〔第壹號〕

〔原表輪廓 横七寸四分 九寸〕

人相書

口	鼻	眉	眼	頭髮	色	顔	丈

〔本籍身分〕

〔氏名〕

〔年齢〕

〔ル者ハ米字〕

耳	
齒	
音聲	
痘痕	
疵所	
鬚髭ノ有無	
其他特徴	
長所	
父母妻子	
逃走ノ際 着用衣服	
同上ノ際 持去物品	
罪名 其期限	

右者〔何方〕ニ於テ處刑中明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日〔何〕時〔何〕分逃走候ニ付逮捕ノ御處分有之度候也

明治 年 何裁判所ノ日印

〔何〕裁判所 檢事〔氏名〕印

〔ハ〕ヲ施ス者ハ朱字

〔第二號〕

〔何〕裁判所 檢事〔氏名〕殿

逮捕狀

〔罪名並ニ刑名及ヒ其期限〕^{〔本籍身分〕} 氏名 〔年齢〕

右者〔何方〕ニ於テ處刑中明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日第〔何〕時〔何〕分逃走〔管内ニ脱出シタル以下有之〕シタル趣ヲ以テ

〔何〕裁判所檢事ヨリ逮捕方囑託有之候ニ付嚴密搜索ヲ遂ケ見當リ次第逮捕ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月 日 何裁判所ノ日印

執行シタル月日時	執行シタル場所	家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其事由	勾引スルハ其事由	右之通取扱候也

〔何〕裁判所

明治年月日

檢事〔氏名印〕

〔巡查又ハ憲兵氏名印〕

人相書

丈	顔	色	頭髪	眼	眉	鼻	口	耳	齒	音聲	痘痕	疵所	鬚髭ノ有無	其他特徴	長所	父母妻子

逃走ノ際着用衣服
同上ノ際持去物品

〔第二千二百四十七〕 明治十五年四月十七日司法省丙第拾四號 大審院裁判所警視廳へ達
既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ昨明治十四年丙第貳拾號ヲ以テ相達
置候處始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發ス
ル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

〔第二千二百四十八〕 明治十六年三月十二日司法省丙第壹號 大審院裁判所警視廳へ達
刑事裁判上在本邦外國公使館ニ備ハレタル内國人ニ對シ發スヘキ令狀ハ明治七年第百貳拾
八號公達ニ據リ公使館ニテ唯諾ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其ノ唯諾ヲ經ルノ手續ハ
明治十四年第五拾三號公達ノ旨モ有之ニ付大審院并裁判所ハ其事柄ヲ明記シ當省へ申出指
令ノ上其令狀ヲ發シ又警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務省へ申出右唯諾ヲ經ルノ手續ハ
了シ令狀ヲ執行セシムヘキ儀ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

但本文令狀執行者ハ專ラ明治七年第百貳拾五號達ノ旨趣ニ據リ聊不都合ノ取計無之様厚
ク注意セシムヘシ

○第三款 軍人軍屬捕縛方

〔第二千二百四十九〕 明治十五年三月二十日司法省丁第拾七號 大審院裁判所へ達
軍人軍屬ノ犯罪未決中逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丁第拾

七年第百廿
八號公達ハ
二二二四六
二二二四七
二二二四八
二二二四九
二二二五〇
二二二五一
二二二五二
二二二五三
二二二五四
二二二五五
二二二五六
二二二五七
二二二五八
二二二五九
二二二六〇
二二二六一
二二二六二
二二二六三
二二二六四
二二二六五
二二二六六
二二二六七
二二二六八
二二二六九
二二二七〇
二二二七一
二二二七二
二二二七三
二二二七四
二二二七五
二二二七六
二二二七七
二二二七八
二二二七九
二二二八〇
二二二八一
二二二八二
二二二八三
二二二八四
二二二八五
二二二八六
二二二八七
二二二八八
二二二八九
二二二九〇
二二二九一
二二二九二
二二二九三
二二二九四
二二二九五
二二二九六
二二二九七
二二二九八
二二二九九
二二三〇〇

五年第百九
十號布告ハ
千七百三
七三三

四號達ニ依リ捕縛方取計ヲ可シ此旨相達候事

〔第二千二百五十一〕 明治十五年三月二十日司法省丁第拾八號始審裁へ達

丙第六號達ハ
(二千二百四
十六ノ下)ニ
出ス

軍人軍屬ノ犯罪既決後逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丙第六號達ニ依リ捕縛方取計ヲ可シ此旨相達候事

○第四款 商船内犯罪取扱規則

〔第二千二百五十一〕 明治十四年十二月十五日第六拾五號布告

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

別紙

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其中立ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港

ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地註割ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

○第五款 保釋責付及處屬代言人

○第一節 保釋責付手續及保釋責付取締

〔第二千二百五十二〕 明治十四年九月二十日第四拾七號布告

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷セシムヘキノ證書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

〔第二千二百五十三〕 明治十六年十一月五日司法省丙第八號警視廳へ達

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判所へ相達候條此旨爲心得相達候事

丁第三拾壹號 裁判所

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ儀ニ付キ保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ

第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ届置ク可キコトハ言ヲ待タス其裁判所ノ管轄

第五部 第三編 第二章 第四款 ○第五款 第一節 第六百四十九

地外ニ旅行スルコトヲ得ス若シ已ムヲ得サル事由アルキハ其旨ヲ檢事ニ申立テ許可ヲ受ク可シ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滞在スルキハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置ク可シ

若シ同居人アラサルキハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置ク可シ

第三條 代官人辯護人又ハ代人トシテ法廷ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルコトヲ得ス

第四條 治罪法第二百一十一條ニ適當スル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ
右相違候事

○ 第二節 所屬代官人

第一千二百五十四 明治十四年十二月二日司法省甲第八號布達

大審院諸裁判所所屬代官人規則別紙之通相定候條此旨布達候事

別紙

所屬代官人規則

第一條 治罪法中所屬代官人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所所在ノ地ニ住居スル免許代官人ヲ云

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代官人辯護人ハ正當ノ事由ヲ證明スルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三條 代官又ハ辯護受任中代官免許満期ニ至リ引續營業セヌ又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代官辯護ヲ擔當ス可シ

第四條 代官又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコトヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代官人辯護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當ス可シ

總テ謝金ニ付テハ出訴スルコトヲ許サヌ

○ 第六款 証人鑑定人等ノ旅費日當立換サレ事及犯罪證據物トシテ戸長役場ノ書類差押方ノ事

第一千二百五十五 明治十五年六月廿九日司法省丙第貳拾五號 大審院裁判所警視廳へ達
刑法治罪法實施以來刑事ニ付出庭セシメタル証人鑑定人等ノ旅費日當等一時官廳ニ於テ立換渡ヲ爲シ候儀モ有之候處該旅費日當等ハ則裁判費用ニシテ總テ被告人ノ擔當スヘキモノナルハ勿論ノ儀ニ付自今右立換渡ヲ爲スニ不及ル儀ト心得ヘシ此旨相違候事
但從前ノ指令及ヒ内訓本文ニ抵觸スル件々ハ都テ取消候事

第一千二百五十六 明治十七年五月三十日司法省丙第壹號 大審院裁判所警視廳府縣へ達
東京府ヲ除ク憲兵本部

犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類ヲ差押フル儀ニ付甲號福井縣上申ニ對シ乙號ノ通及指令候條爾後戸籍帳等ノ差押ニ付テハ右ノ手續ニ依リ取扱フ可キ儀ト心得可シ此旨相違候事
甲號

裁判所ニ於テ犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ要書差押ヘタル節還附方ノ儀ニ付上申犯罪證據物トシテ裁判所ニ於テ戸長役場備置ノ戸籍帳又ハ土地建物船舶賣買讓渡賃入書入奥書割印簿等ヲ差押ヘ數日間還附セサルコアリ然ルニ戸長役場ニ於テハ部下ノ人民生死送入籍其他ノ異動加除ヲ要シ又ハ陸續公證ヲ請ヒ就中賃入書入契約ノ如キ義務消盡ニ據リ公證取消ノ儀申出ル者アルモ本簿ヘ照較消印スル能ハサルヲ以テ其旨ヲ具ヘ簿冊下戻方裁判所ヘ照會スルモ某事件ニ付差押ヘタル證據物ナル故一件落着迄還付シ難キ旨回答有之取扱上頗ル差支候趣ヲ以テ伺出候向アリ右ハ犯罪證據物トシテ差押ヲ要スルハ其一部分ニ止ルヘクシテ而シテ該簿冊ニ登載セル其他ノ事件全体ニ關シ行政上取扱ニ支障ヲ來シ不都合不抄就テハ斯場合ニ於テハ其必要ノ廉ハ裁判所ニ於テ騰寫シ本書加除スルヲ得サル様掛紙契印等ヲ爲シ而シテ簿冊ハ直ニ還付スヘク様致度御詮議ノ上何分ノ御指揮相成度此段上申候也

明治十七年一月二十九日

福井縣令 石 黑 務

内務卿山縣有朋殿
司法卿山田顯義殿

乙號

書面上申之趣開届候尤裁判所ニ於テ騰寫セシ該書ヘハ戸長之レニ調印スヘシ若シ其騰寫ニ拘ハル内ニ加除等ヲ要スル時ハ其都度裁判所ノ許否ヲ得ヘキ儀ト心得事

明治十七年五月二十八日

○第七款 違警罪審判手續及上訴ノ事

第二千二百五十七 明治十四年九月廿日第四拾四號布告

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ常分ノ内便宜取計ヲヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事

○第八款 檢察官ニテ裁判所ノ命令書及騰本ヲ要スル片交付方并既決囚ノ犯罪ニ付刑ノ言渡ヲナシタル片宣告書ノ騰本ヲ送達スル事

第二千二百五十八 明治十五年二月十三日司法省丙第五號 大審院裁判所警視廳 府縣東京府ヲ除ク へ達

檢察官ニ於テ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮スルニ當リ其命令書若クハ言渡書ノ騰本ヲ要スル時ハ該書記局ニ於テ速ニ其騰本又ハ拔書ヲ作り交付ス可キ儀ト心得可シ此旨相違候事

第二千二百五十九 明治十七年六月廿三日司法省丙第貳號 大審院裁判所警視廳 府縣東京府ヲ除ク へ達

已決囚ノ犯罪ニ付キ之ヲ裁判所ニ呼出シ審理ノ未刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ明治十五年
當省丙第八號達ニ依リ檢察官ヨリ其宣告書ノ謄本ヲ司獄官ニ送達スルハ勿論自今已決囚ニ
對スル其他ノ宣告ニ付テモ其豫審ニ係ルト公判ニ係ルトト問ハス書記ヨリ宣告書ノ謄本ヲ
司獄官ニ送致シ又證人トシテ出廷セシメタル已決囚用濟ニ至リタル時ハ亦書記ヨリ其旨ヲ
司獄官ニ報知ス可キ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○第九款 無能力者法律ニ定メタル代人民事擔
當人タル者

【第二百六十一】 明治十四年十二月廿八日第七拾三號布告

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通

無能力者

- 一 未丁年者
 - 二 妻タル者
 - 三 白痴瘋癲人
 - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
 - 二 夫タル者

- 三 白痴瘋癲人ノ保管者
 - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人
- 民事擔當人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
 - 二 夫タル者
 - 三 白痴瘋癲人ノ保管者
 - 四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時
右奉 勅旨布告候事

○第拾款 郵便犯則者ニ對スル未納不足稅等徵
收方受理ノ事

【第二百六十一】 明治十七年八月十三日司法省丙第壹號 大辨院 裁判所 警視廳 府 縣 へ達
東京府ヲ除ク 憲兵本部
郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相
達候事

司 法 省
驛遞局ヨリ郵便犯則者ヲ告訴スルト併セテ未納稅不足稅等ノ徵收ヲ請求スルトキハ其請求
ニ應シ之ヲ受理スヘキ儀ト心得此旨相達候事

○第拾壹款 司法警察規則附錄

【第二千二百六十二】

明治七年九月廿九日第百貳拾八號使府へ達

本年一第拾四號ヲ以テ相達候司法警察規則附錄別紙之通相定候條此旨相達候事

別紙

司法警察規則附錄

外國公使及ヒ公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家屬並ニ公使館屬員書記官隨員公使ノ僕隸書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト思量スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歷テ公使官ヘ報知シ其唯諾ヲ待チテ後引出スヘシ尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルヲニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル處ヲ聞知ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル

▲四一

時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述ル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置スヘシ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受ケテ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論車馬家畜ノ未ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲スヘシ

外國公使館屬員罪ヲ犯シ並犯罪ノ內國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカダキ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申スヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可ラス或ハ屬員ノ內國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼レヨリ引渡ヲ受クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル内國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スル時ハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡シヲ要求シ其人ヲ受取リテ後之ヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムルハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ム可シ

類聚 本邦法令第五卷 終

- 正誤
- 四 丁 四行 (即概時)ハ(即時概)ノ誤
 - 五 丁 濫頭 (二千二百四十一)ハ(二千二百四十)ノ誤
 - 十 丁 濫頭 (二千二百四十二)ハ(二千二百四十)ノ誤
 - 四十一 丁 十一行 (壽津都)ハ(壽都)ノ誤
 - 四十二 丁 十六行 (阜岐)ハ(大津)ノ誤
 - 全 丁 十八行 (大津)ハ(岐阜)ノ誤
 - 四十四 丁 十四行 (萩三)及(田尻)ハ(萩)及(三田尻)ノ誤
 - 四十六 丁 十行ノ濫頭ニ(全上)ヲ脱ス
 - 五十二 丁 二行 (兒島部)ハ(兒島郡)ノ誤
 - 五十二 丁 初行 (第一千五百六十三)ハ(第一千九百六十三)ノ誤
 - 九十四 丁 六行 (式樣)ハ(樣式)ノ誤
 - 百 丁 第二ノ野中(借區人)ノ下橫線ヲ脱ス
 - 百 二 丁 野 版 末行ト百三丁ノ初行ト連續スヘキヲ誤ル
 - 百十四 丁 五行割註 (官省)ノ下ト(院使)ノ上ニ括弧ヲ脱ス
 - 百十五 丁 十一行 (縣費)ハ(經費)ノ誤
 - 百廿二 丁 千葉始審裁判所ノ區畫中(千葉)ノ下(木更津)ハ(木更津)及(北條)ノ中間ノ上ニアルヘキヲ誤リ又(千葉木更津)中間ノ上區ニ縱線ヲ脱ス

- 百廿三丁 浦和始審裁判所ノ區畫中(埼玉縣)ノ下(武藏)ノ右線ハ行
- 百廿四丁 長野始審裁判所ノ區畫中(上田)ハ(上田)ノ上ニ重ネ植ユヘキヲ誤リ又(上田岩村田)ノ中間ノ上區ニ縱線ヲ脱ス
- 百廿五丁 新潟始審裁判所區畫中(高田)治安ノ下(頸城)ノ上(南)ハ行
- 同 丁 京都始審裁判所區畫中(京都)ノ下(宮津)ハ(福知山)及(宮津)ノ中間ノ上ニ置クヘキヲ誤リ又(團部福知山)ノ中間ノ上區ニ縱線ヲ脱ス
- 百廿六丁 (大和)ノ欄下(宇治)ハ(宇智)ノ誤
- 百三十三丁 宮崎始審裁判所ノ區畫中(日向)ノ欄下第一行第二行(北那珂)(南那珂)ハ(北那珂)及(南那珂)ノ誤
- 百三十七丁 濠頭 (十二年)ハ(十年)ノ誤
- 百四十丁 二行 (別冊ノ通)ノ下(改)ヲ脱ス
- 百五十丁 濠頭 (丙第三十號)ハ(丙第三十二號)ノ誤
- 百五十三丁 濠頭 (二千四十四)ハ(二千四十二)ノ誤
- 百五十七丁 左側欄外 (第一章)ハ(第二章)ノ誤
- 百六十一丁 左側欄外 (第二章第二款第三款)ハ(第三章第一款第二款第三款)ノ誤又(○第三章第一款)ハ行
- 百七十四丁 野 外 第四行割註(七月)ハ(一月)ノ誤
- 全 七行割註 (民)ノ下(刑)ヲ脱シ(別)ノ下(民)ハ行

- 百八十七丁 十二行 (新件)ハ(新訴)ノ誤
- 二百一丁 野畫中 (檢察官)云々ノ行ト(犯罪事件)云々ノ行ノ間ノ縱線ハ行
- 二百三丁 野畫中 (犯數)ノ下(何年何月何日)ノ朱字(裁判言渡ノ年月日)ノ下欄ニ入ル(初犯(或ハ再犯))ノ朱字ハ(犯數)ノ下欄ニ入ルヘキヲ誤
- 二百六丁 濠頭 (二千七十五)ハ(二千七十三)ノ誤
- 二百十丁 四行以下五行 一字下ケヘキヲ誤
- 二百十二丁 野 外 第二行以下三行ハ(檢事)云々ノ項ニ並フヘキヲ誤
- 二百十四丁 野 内 初行(歸決)ハ(既決)ノ誤
- 二百十七丁 第八號表式中(既濟未濟日數)ノ下(十日以上)ハ(十日以上)ノ誤
- 二百二十一丁 十四行 ○ハ行
- 二百廿七丁 終 行 (賦課金被)ハ(金額)ノ誤
- 二百廿九丁 終ヨリ第三行 (第二千七十九)ハ(第二千七十七)ノ誤
- 二百三十一丁 第二表ノ下第二行 (受付タル時)ノ下()ヲ脱ス
- 二百三十九丁 終ヨリ第二行 (第二千八十一)ハ(第二千七十八)ノ誤
- 二百四十丁 三行 (第二千八十二)ハ(第二千七十九)ノ誤
- 全 十一行 (第二千八十三)ハ(第二千八十)ノ誤
- 全 十六行 (第二千八十四)ハ(第二千八十一)ノ誤
- 全 濠頭 (二百六十五)ハ(二千六十五)ノ誤

二百五十九丁 二行 (他)ハ(何)ノ誤
 二百七十七丁 十三行 (般今)ハ(今般)ノ誤
 二百七十九丁 十一行 (件々)ハ(權限)ノ誤及(事ハ)ハ(事ヲ)ノ誤
 二百八十五丁 五行 (達)ハ(布告)ノ誤
 二百八十八丁 三行 (管轄)ノ下(廳)ヲ脱ス
 二百八十九丁 三行 證頭初註 (第五條)ハ(第十五條)ノ誤
 全 證頭第二註 (丁第四十號達)ハ(丁第四十九號達)ノ誤
 二百九十三丁 十四行 (公書)ハ(公證)ノ誤
 三百 丁 二行 割註 (ち板)ハ(椽板)ノ誤
 三百四丁 十行 (此限)ハ(此制限)ノ誤
 三百六丁 十一行 (証書)ノ下(ニ)ハ(衍)
 三百二十丁 證頭 (二千五百一)ハ(二千四十九)ノ誤
 三百廿一丁 七行 (相達)ハ(相違)ノ誤
 三百三十丁 三行 (第二千六百六十九)ハ(第二千五百五十九)ノ誤
 三百二十五丁 證頭 (千二百七十八)ハ(千二百八十)ノ誤
 三百五十五丁 十行 (記ス)ハ(記シ)ノ誤
 全 十七行 割註 (本章)ノ下(ヲ)ヲ脱
 三百六十九丁 表外八行 (答書表)云々ノ下割註(訴訟)ハ(訴狀)ノ誤

三百七十一丁 表中 (代書人)ノ項ハ(衍)
 三百七十三丁 表中 同上
 三百八十五丁 六行 (十一月)ハ(十月)ノ誤
 三百九十九丁 七行 (雜費)ノ下(ハ)ヲ脱ス
 四百十四丁 二行 (各)ノ下(開)ヲ脱ス
 四百十五丁 十一行 割註 (司法省)ノ上(九年)ヲ脱ス
 四百十六丁 初行 (八月廿三日)ハ(廿二)ノ誤
 四百廿六丁 證頭 (二千二百十九)ハ(二千二百十七)ノ誤
 四百二十九丁 證頭 (二千二百四十八)ハ(二千二百四十六)ノ誤
 四百四十一丁 證頭 (二千二百廿五)ハ(二千二百廿三)ノ誤
 四百六十八丁 十三行 (者)ノ下(ハ)ヲ脱ス
 四百八十一丁 四行 (違輕罪)ハ(違警罪)ノ誤
 四百八十一丁 十八行 (住居セル)ハ(住居セサル)ノ誤
 全 二行 (滅盡)ハ(滅盡)ノ誤
 四百八十二丁 三行 (違輕罪)ハ(違警罪)ノ誤
 四百八十四丁 十五、十六、十八行 擊ハ(繫)ノ誤
 四百八十七丁 十二行 (死刑)ハ(主刑)ノ誤
 四百九十五丁 證頭第一註 (第八十號布告)ハ(第八十號公達)ノ誤

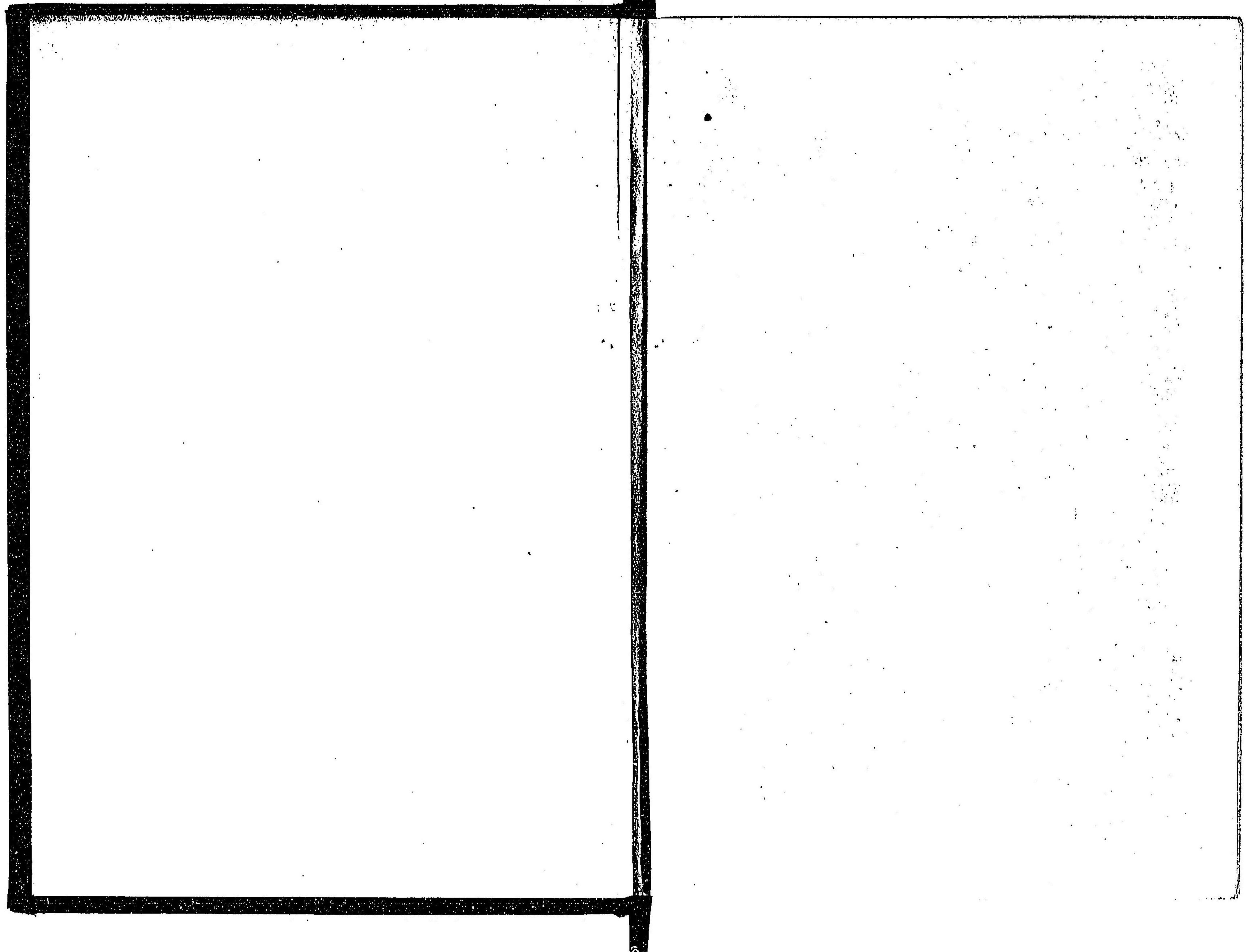
五百十八丁 終行 (第二千三百三十二) (第二千三百三十二)ノ誤
 五百廿三丁 十四行割註 (第第) (第第)ノ誤
 五百廿八丁 七行 (時) (時)ノ誤
 五百四十一丁 十四行 十四行以下五行ハ第七十二條ノ末ニ入ルヘキヲ誤ル
 五百五十七丁 ノ表 (三百五十三) (五百五十三)ノ誤
 五百五十九丁 十行 (書記局所)ノ下(屬)ヲ脱シ(丁)ノ上(使)ヲ脱ス
 五百六十四丁 九行 九行以下四行ハ第四百四十八條ノ末ニ入ルヘキヲ誤ル
 五百七十丁 五行 (タリ) (タル)ノ誤
 六百六丁 二行 (免許) (免許)ノ誤
 六百三十六丁 第三表中 (住所身分職業)ノ下括弧ヲ脱ス
 六百三十九丁 同上
 六百四十一丁 釐頭 ()云々ハ衍
 六百四十四丁 表中末欄内 (右者)云々ノ行中(何)第(何)日第)ノ誤
 六百四十七丁 釐頭 (第百廿八號) (第百廿八號)ノ誤
 六百五十五丁 十二行 (丙第壹號) (丙第三號)ノ誤
 六百五十六丁 十三行 (公使官) (公使館)ノ誤

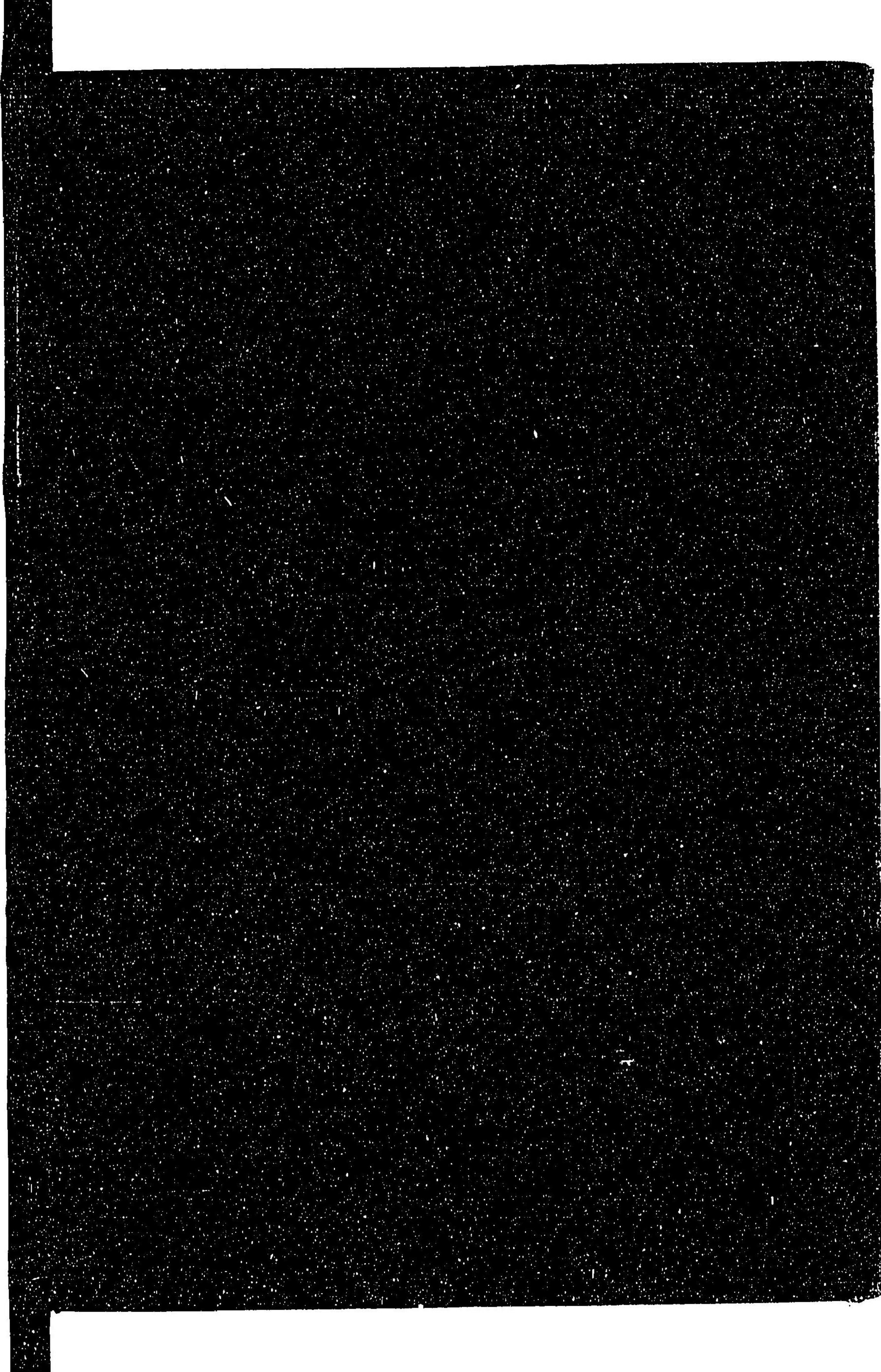
明治十七年五月廿九日版權免許

編纂兼
出版人

兵庫縣士族
長尾景弼
府下芝區愛宕下町
三丁目壹番地寄留

東京銀座四丁目 博聞本社
 大坂備後町四丁目 全分社
 千葉縣下千葉町 全分社
 埼玉縣下浦和驛 全分社





147
17

禁電子式複写

031150-005-2

CZ-5-04

類聚本邦法令

長尾 景弼 / 編

M17-18

BBC-1230



